

(平成19年11月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>11月期の野菜の入荷状況については、全体的に順調な入荷状況とはなったものの、品目によっては夏から秋にかけての高温・早魃が入荷量に大きく影響することとなった。</p> <p>結果として、入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は、不安定な入荷状況による品薄感と、中旬以降の気温の低下に伴った秋冬野菜の需要の増加から、結果として前年同期を22%上回った。</p> <p>品目別には、長大根、かぶら、西洋にんじん、ほうれん草、レタス、きゅうり、とまと、ピーマンが入荷減の単価高で推移し、きゃべつは入荷が前年並みで単価高となった。さらに、玉ねぎは入荷増の単価安となり、はくさい、なす、生しいたげは入荷増ながら単価高となった。ばれいしょは、入荷は前年並みで単価安となった。</p> <p>根菜類は、入荷が8%減少し、価格は29%高となった。</p> <p>葉菜類は、入荷は前年並みで、価格は38%高となった。</p> <p>果菜類は、入荷が11%減少し、価格は35%高となった。</p> <p>土物類は、入荷が5%増加し、価格は前年並みとなった。</p>
果 実	<p>11月期の果実の入荷状況は、主力のみかんが出荷の最盛期を向かえる中で、柿類、梨類、メロン類も順調な入荷状況となった。とりわけ、昨年が裏年であったみかんは、小玉傾向ながら順調な入荷となった。一方で、りんご、イチゴについては、晩秋まで続いた高温の影響から着色不良による出荷遅れ等が見られ、極めて不安定な入荷状況となった。</p> <p>結果的に入荷量は、前年同期を6%上回った。</p> <p>価格は、入荷増となった品目を中心に単価安での推移となったことにより、結果的に前年同期を18%下回った。</p> <p>品目別には、早生みかん、アールスメロンが入荷増の単価安で推移し、富有柿は入荷が前年並みながら単価安となった。イチゴ、ふじりんご、ジョナゴールドは入荷減の単価高となった。</p> <p>柑橘類は、入荷が30%増加し、価格は33%安となった。</p> <p>りんごは、入荷が23%減少し、価格は4%高となった。</p> <p>柿(干柿類含む)は、入荷が18%増加し、価格は12%安となった。</p> <p>いちごは、入荷が49%減少し、価格は29%高となった。</p> <p>メロンは、入荷が21%増加し、価格は24%安となった。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
<p>【根菜類】</p> <p>長大根</p> <p>かぶら</p> <p>洋人参</p>	<p>千葉県を中心に石川県，青森県，徳島県からの入荷。全体的な作付面積の減少等により，入荷量は前年同期を8%下回った。</p> <p>価格は，入荷減の中で，太物の比率が少なく販売環境が良かったことと，昨年が豊作傾向で単価安であったことから，結果として，前年同期を34%上回った。</p> <p>京都府を中心とする入荷。天候に恵まれ順調な入荷状況ではあったものの，昨年が暖冬による記録的な豊作であったことから，入荷量は前年同期を17%下回った。</p> <p>価格は，2L・3Lを中心に販売環境が良く，また，前年が安値であったことから，前年同期を99%上回った。</p> <p>北海道を中心に長崎県からの入荷。北海道は順調な入荷であったが切上りが早く，また，後続産地の長崎県産も長期化した高温早魃の影響から入荷量が伸びなかった。結果として，前年同期を4%下回った。</p> <p>価格は，入荷減に加え，太物の比率が少なく販売環境が良かったことから，前年同期を11%上回った。</p>
<p>【葉菜類】</p> <p>はくさい</p> <p>キャベツ</p> <p>ほうれんそう</p>	<p>茨城県を中心に長野県，滋賀県，和歌山県からの入荷。各産地ともに豊作傾向で出荷のピークを向えたことから，前年を上回る入荷となった。結果的に，前年同期を21%上回った。</p> <p>価格は，入荷増ながら加工業務消費・一般消費ともに安定した荷動きとなり，また，昨年が暖冬により価格低迷したこともあって，結果的に前年同期を36%上回った。</p> <p>愛知県，茨城県を主力に滋賀県，長野県からの入荷。秋冬産地は，豊作傾向で安定した入荷となり，暖冬で入荷量の多かった前年並みの入荷となった。</p> <p>価格は，入荷増ながら加工業務消費・一般消費ともに安定した荷動きとなり，また，昨年が暖冬により価格低迷したこともあって，結果的に前年同期を64%上回った。</p> <p>京都府を中心に徳島県，岐阜県，群馬県からの入荷。各産地ともに高温早魃の影響を受けたことに加え，近郷産地は栽培面積も減少傾向にあることから入荷は減少した。結果的に前年同期を7%下回った。</p> <p>価格は，入荷減から単価高で推移し，前年同期を56%上回った。</p>

レタス	<p>兵庫県，茨城県を中心に一部徳島県からの入荷。各産地ともに作柄は良好で平年並みの入荷状況ではあったものの，昨年が記録的な豊作であったことから，結果的に入荷量は，前年同期を17%下回った。</p> <p>価格は，入荷減と昨年が豊作による単価安であったともから，結果的に前年同期を38%上回った。</p>
<p>【果菜類】 きゅうり</p>	<p>宮崎県を中心に滋賀県，高知県，北海道からの入荷。各産地ともに，高温によって定植時期の遅れが生育に影響し，不安定な入荷状況となった。結果的に入荷量は，前年同期を10%下回った。</p> <p>価格は，入荷減によって，前年同期を56%上回った。</p>
なす	<p>高知県を中心に，岡山県，京都府からの入荷。各産地ともに，加温用重油の高騰から栽培環境が悪化しつつあり，非常に不安定な入荷状況となったものの，結果として入荷量は前年同期を5%上回った。</p> <p>価格は，入荷増ながら，不安定な入荷状況と前年が安値で推移したことから，前年同期を8%上回った。</p>
トマト	<p>熊本県を中心に岐阜県，滋賀県からの入荷。主力の熊本産が夏場の猛暑の影響を受け，低段の着果が悪く予想外の入荷量の減少となった。結果的に前年同期を16%下回った。</p> <p>価格は，入荷減によって前年同期を22%上回った。</p>
ピーマン	<p>宮崎県を中心に高知県からの入荷。夏秋産地は切上りが早く，また，促成産地は定植時期の高温の影響から生育が遅れたため，結果的に前年同期を25%下回った。</p> <p>価格は，入荷減と前年が安値で推移したこともあり，前年同期を70%上回った。</p>
<p>【土物類】 ばれいしょ (メーク含む)</p>	<p>北海道を中心とする入荷。北海道の栽培面積の拡大に加え，生育も順調で安定した入荷となった。結果として，入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は，消費の低迷から前年同期を17%下回った。</p>
たまねぎ	<p>北海道を中心に兵庫県からの入荷。作柄は良好で大玉中心に順調な入荷となった。全体としては前年同期を7%上回った。</p> <p>価格は，入荷増によって前年同期を13%下回った。</p>
生しいたけ	<p>徳島県，和歌山県を中心に広島県，岡山県からの入荷。規模拡大や新規参入の産地もあり，入荷量は前年同期を5%上回った。</p> <p>価格は，入荷増ながら国産需要の高まりから，高値での取引となり前年同期を8%上回った。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
極早生みかん	<p>和歌山県を中心に福岡県，愛媛県からの入荷。高温早魘の影響から小玉中心の入荷となったが，昨年が極端な入荷減であったことから，前年同期を31%上回った。</p> <p>価格は，入荷増と前年が裏年で極端な高値で推移したこともあり，結果的に前年同期を33%下回った。</p>
ジョナゴールド	<p>青森県を中心に岩手県からの入荷。岩手県産は順調な入荷となったが，主力の青森県産は作柄が悪く市場出荷が著しく減少した。結果的に前年同期を9%下回った。</p> <p>価格は，入荷減によって前年同期を8%上回った。</p>
ふじ （サン含む）	<p>長野県，青森県を中心に岩手県，秋田県からの入荷。長野県産は前年並みの入荷となったが，東北の産地については着色不良による出荷遅れや品質低下等により入荷量は減少した。結果的に前年同期を22%下回った。</p> <p>価格は，入荷減による品薄から前年同期を6%上回った。</p>
富有かき	<p>奈良県を中心に福岡県からの入荷。各産地ともに着色遅れによる出荷の遅れが今月中旬になってピークを向かえた。結果的に入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は，一定の入荷量を確保できたものの，小玉傾向から安値となり前年同期を19%下回った。</p>
いちご	<p>福岡県，佐賀県，熊本県を中心に大分県，愛媛県からの入荷。各産地ともに10月までの高温により作柄が悪く，また，出荷のピークも分散型になりつつあることから，結果として入荷量は前年同期を49%下回った。</p> <p>価格は，入荷減に加え，M・S玉を中心に業務筋の引合いが強く，終始単価高で推移し，前年同期を29%上回った。</p>
アールス	<p>静岡県を中心に茨城県，高知県，熊本県，愛知県，宮崎県からの入荷。九州の各産地が入荷増となったことから，結果として入荷量は，前年同期を17%上回った。</p> <p>価格は，入荷増に加え，業務筋の需要が伸びず前年同期を24%下回った。</p>